

将来における 高齢者の暮らしの あるべき姿の実現に向けて

高齢者住宅支援事業者協議会



会長
菊地通晴氏

超高齢社会に対応した 暮らしへの貢献目指す

高齢者住宅支援事業者協議会（高支協）は、「快適で安心な暮らしを提供し、高齢者の豊かな未来を創造することで、超高齢社会に貢献する」ことを理念に掲げ、「将来における高齢者の暮らしのあるべき姿の実現に向けて、社会への啓発・普及活動と、より良いソフト全般に亘るサービスの開発を喚起する」ことを目的に2019年4月に設立された。

医療・介護施設の開発、経営サポートに携わる企業・団体や高齢者の日常生活を支援する設備機器・システムメーカーなど34社（20年9月末現在）が参画、㈱丸八眞綿RAS事業部長の菊地通晴氏が会長を務める。高齢者住宅の開発や運営に技術

を有する専門企業が英知を結集することで、将来における高齢者の豊かな暮らしの実現を目指し、住まいをベースとした設備機器・システムの開発など、福祉イノベーションを通して社会への啓発・普及活動を行っている。

主な活動内容は、以下の通り。
① 未来型高齢者住宅のあるべき姿を模索研究し、社会提言を行なう

② 未来型高齢者住宅に関する会員間の研究

③ 理想とする未来型高齢者住宅モデルルームを開設し、利用者および事業者に直接触れる場を提供

④ モデルルームを介したイノベーションと成り得る技術と商品の啓発

⑤ オープンイノベーションによる介護支援機器の開発支援と普及

こうしたなか高支協では、組織内に8つの分科会（食事、入浴・トイレ、リハビリ、ターミナルケア、認知症ケア、アクティビティ、運営、ハード環境）から構成される「エルダリーハウス2030委員会」を立ち上げ、

発に向けて研究活動を行なっていくたい」と語っている。

未来型高齢者住宅の理想形の実現に向けたモデルルームを開設し、利用者として事業者を直接結ぶ場の提供を目指すなど、活動を進めてきた。そして、今年5月に2030年の高齢者住宅のあるべき姿をまとめた『エルダリーハウス2030プロジェクト報告書』を公表。高齢者の暮らしや高齢者住宅の未来像について、各分科会での協議をもとに、さまざまな視点からの提言を行なっている。本報告書は同協議会ホームページから誰でもダウンロードできるため一読をお勧めしたい。

菊地会長は、「今後も幅広い分野からの多くの企業の参画を募るとともに、企業間の枠を超え官・民・学の連携による活動を広げつつ、将来における高齢者の暮らしのあるべき姿の実現に向けて、社会への啓発・普及活動と、よりよいサービスの開

『エルダリーハウス2030プロジェクト報告書
～2030年の高齢者住宅を提案する～』



高齢者住宅支援事業者協議会



問合せ

東京都千代田区神田錦町
1-13 601号
http://koshikyo.com
TEL.03-3292-1107
info@koshikyo.com